

# 民間主導によるコミュニティの活性化に関する調査研究 ～コミュニティビジネスの事例からみる地域活性化のヒント～ 結果の概要

## 1. 目的

近年、わが国では、地域社会における様々な課題が山積し、コミュニティの弱体化が社会問題になっている。こうした課題に対して、地域資源を活用しつつ、ビジネス的な手法を取り入れて解決するコミュニティビジネスやソーシャルビジネスの動きが各地で展開されている。これらの活動の中には、行政の支援を受けずに、事業から利益を生み出して継続的に活動し、事業を通じて世の中を変えようとしている事例も見られる。これからの地域社会の活性化を考える上で、行政に依存しない民間主導の方法を模索し、このような活動を担っていく人材を地域の中で育てていくことは重要なテーマである。本調査研究では、コミュニティビジネスのケーススタディを通じて、地域課題や社会課題を解決するための民間主導の取組促進に向けた今後の道筋を検討した。

## 2. 結果概要

### (1) コミュニティビジネスの事例

#### ①しゅんかしゅんか ～東京野菜（農家）と地元住民をつなぐための取り組み

【事業概要】2011年、「東京に農地を残す」、「都市農業を存続させる」というビジョンを掲げ、株式会社エマリコくにたちを設立、住民に地元農家の野菜を販売する常設の店舗を開店した。2012年には駅前のビルオーナーからの要請で、地元野菜を使った飲食店も開店した。

＜立ち上げのきっかけ＞

➤東京野菜の即売を行うNPOでの経験

＜事業化に向けての取り組み＞

➤地域を盛り上げるような情報を発信する

➤地域のネットワークに入り込む

➤住民に東京農業への理解を広げる

＜コミュニティビジネスの効果＞

➤農家の意識が前向きに変化

#### ②やぼろじ ～古民家を拠点とした、地域に対する思いを繋ぐ取り組み

【事業概要】やぼろじとは、東京都国立市谷保にあ

る路地という意味で、古民家を活用して色々な人達の思いを実現するための居場所である。2011年5月に活動を開始した。やぼろじの敷地（約360坪）は江戸時代から続く旧家であり、20年間空き家になっていた住まいを活用し、コミュニティカフェ、シェアオフィス、工房、ギャラリー、イングリッシュガーデンが共存している複合的コミュニティである。ここを拠点に、地域住民に向けて交流会やイベント、コミュニティカフェでのミニ講座なども開催しており、地域住民との交流を深める場にもなっている。

＜立ち上げのきっかけ＞

➤市民グループの思いを繋ぐ

➤オーナーの思いを繋ぐ

＜事業化に向けての取り組み＞

➤ワークショップによる合意形成で方針決定

➤無理のない契約内容、事業計画

＜コミュニティビジネスの効果＞

➤緩やかな繋がりが広がる

#### ③タウンキッチン ～地域で主体的に活動できる人材を育てる取り組み

【事業概要】タウンキッチンは、2010年に任意団体から株式会社となった。事業内容は大きく2つあり、1つは2010年から始めた「学園坂タウンキッチン」の運営である。地域の人材の「出番」をつくるという趣旨で、自分の意志で店を開きたいという人を募集し、集まったメンバーが店舗（食堂）をシェアして運営している。もう1つは、2014年から運営している「東小金井事業創造センターK0-T0（コート）」である。ここではシェアオフィスと創業相談、セミナー、交流会などを行っている。

＜立ち上げのきっかけ＞

➤食を通して、地域の中に関係性をつくる

＜事業化に向けての取り組み＞

➤地域の人材の「出番」をつくる

➤人を育てることが地域を豊かにする

➤質の確保とテーマの深掘り

＜コミュニティビジネスの効果＞

➤自立的なコミュニティシステムの形成に寄与

#### ④ハタラボ ～コミュニティビジネスの立ち上げを支援する取り組み

【事業概要】2006年、NPO法人マイスタイルが立ち上げたハタラボは、地域の中で様々なコミュニティビジネスの立ち上げの支援を行い、まちを元気にすることを目指している。単なる起業支援ではなく、コミュニティを創る、ソーシャルキャピタルを高めることを目指している。具体的な事業は以下の通りである。

- ・まちに関わる仕事をつくる（創業支援）
- ・市民力UP（人材育成）
- ・まちの未来セッション（住民が語り合う場）
- ・まちの魅力発見（情報発信）

＜立ち上げのきっかけ＞

▶地域にはSOSを支援者に繋ぐ機能が必要

＜事業化に向けての取り組み＞

▶地域に根を張り、地域資源を活かす

▶原則として自立を目指す

▶自ら動けば、地域も自分も豊かになる

＜コミュニティビジネスの効果＞

▶地域資源を活かすことが、安心して暮らせるまちづくりに繋がる

#### （２）事例から学ぶ民間主導の活動を活性化するヒント

事例調査から、民間主導の活動を活性化する上で、地域社会との関わり、事業を継続させるコツ、新たな社会的価値の創出、という視点に着目することが重要であることを確認することができた。

地域社会との関わりでは、地域に密着した社会資源（人材、自然、文化、伝統、産業等）を活用し、それらを繋いでいく仕組みをつくることが重要である。そのためには、常に地域に根を張り、何と何を、どこどこを繋げば地域を活性化できるか、日常的な関わりから小さなきっかけを発見する視点を持つことが重要である。

事業を継続させるコツは、メンバー間の合意形成をスムーズに図ること、アウトプットの質を確保することが重要である。また、専門家や共感できる仲間とのネットワークをつくることで、情報交換や販路の拡大にも繋がる。さらに、地域に対してビジョンを発信することで、地域の信頼を確保することにも繋がる。

新たな社会的価値の創出では、活動に取り組みながら新たな繋がりができ、次なるビジネスを派生さ

せていくことが重要である。これによって、新たな（自立的な）コミュニティが形成され、そこで暮らす（働く）人々の意識も変化し、新たな商品やサービスの開発だけでなく、地域の担い手も育成されていく。

コミュニティビジネスは、地域の課題や地域への思いを地域の繋がりで解決しようと試みるものであると同時に、それが地域を繋ぐ手段にもなっている。

#### （３）民間主導によるコミュニティ活性化の今後の展望

コミュニティビジネスは、一般的に資金面での脆弱性を指摘されることが多く、初期投資等での行政支援は必要である。しかし、最終的には自立を目指した上で支援を受けるといった団体側の覚悟は不可欠である。一方、行政側も、期間限定の支援ではなく、地域にとって有意義な活動であれば長期的視野に立ち、責任を持って支援し、また支援を行うための評価の仕組みも充実させる必要がある。例えば、住民が応援したいと思う団体を支援するような、住民参加型の支援の仕組みも考えられる。

地域活性化の手段としてのコミュニティビジネスのような取り組みは、ますます多様化され、繋がり、広がっていくと思われる。地域住民が、自らプレイヤーとなり、仲間達と主体的にまちをつくることのできる時代でもある。私達が、どのような暮らしをしたいか、地域は何ができるか、そして行政の役割は何かを、共に考えることが今後の課題でもある。

\*本報告は、財団法人仁川発展研究院・一般財団法人日本総合研究所による『日韓共同研究叢書4』の報告の一部として掲載したものである。

#### ＜参考文献等＞

- 饗庭伸（2015）『都市をたたく』花伝社  
やぼろじHP  
<http://www.yabology.com>  
タウンキッチンHP  
<http://town-kitchen.com/>  
NPO法人マイスタイルHP  
<http://mystyle-kodaira.net>  
株式会社エマリコくにたちHP  
<http://www.emalico.com/shunka>  
シェアする暮らしのポータルサイト「人と人、人と自然がつながる古民家コミュニティ『やぼろじ』」（2012.07）  
<http://share-living.jp/project/post2231/>  
「ソトコト（2014年9月号）」木楽社  
「greens weekly（2015.03.09）」greens.jp  
<http://greenz.jp/2015/03/09/townkitchen-2/>  
「a Piece of Social Innovation（2014.06.13）」greens.jp  
[http://greenz.jp/2014/06/13/mystyle\\_kodaira/](http://greenz.jp/2014/06/13/mystyle_kodaira/)